告　辞

陽の光に、春の訪れを感じます本日、ここに関係各位のご臨席のもと、令和 6 年度　佛教大学通信教育課程　第 25 回前期大学院学位記、第 69 回前期卒業証書授与式を挙行できますことを大変嬉しく思います。卒業生、修了生の皆さん、本当におめでとうございます。皆さんの卒業、修了を、佛教大学教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

皆さんが今日という日を迎えることができましたのは、お一人お一人のご努力の成果であることはもちろんですが、それに加えて、皆さんを温かく見守ってこられたご家族やご友人など、皆さんを取り巻く周囲の方々のご理解とご支援があったからに他なりません。ご家族やご友人、ご関係の皆さまには、今日までのご支援に対し、敬意と感謝を表し、心よりお喜びを申し上げます。

孤独な学習を基本とする通信教育の学びではありますが、スクーリングのオンライン化が進み、移動時間や宿泊費用に縛られることが少なくなる一方で、教職員や学友とリアルに接する機会が減少し、不安や困難に直面する学生生活であったことでしょう。コロナ禍を経て日常生活はもとに戻ってきましたが、時間を確保して学修することの難しさは、実際にそれをやってきた人にしか分からない大変さがあったであろうと思います。想像もしていなかった問題に直面し、諦めかけた方もいるでしょう。しかし、その中で自分にできることが何かを考え、それを精一杯実行し、自分が持っている力のすべてを出し切って前に進み、そして本日の卒業・修了にたどり着かれたことと思います。お一人お一人のそれら貴重な経験は、今後に役立つ糧となることは間違いないと信じています。そしてこれこそが、眼の前に起こる現実をしっかり見据え、自分のなすべきことをなすという仏教精神を体現することに他なりません。佛教大学での学びを終えた皆さんには、一人ひとりの学びと経験が仏教精神そのものであることを心に留め、今後も自信と誇りをもって歩んでいただきたいと思います。

社会に目を向ければ、大雨や大雪などのさまざまな自然災害が頻発し、異常気象の連続で、温暖な四季のある日本という、かつてのイメージとは異なる気候の変化が、私たちの日常に大きな影響を与えるようになりました。また国際的な争いも多発し、不安定で危うい状態が世界各地で現に今、続いています。これらは誰にでも起こることであり、いつ自分の身に降りかかるかわかりません。だからこそ常に、悩み苦しむ人々の存在に気づき、思いを寄せることが重要であると考えます。いまだ復興半ばの能登や、熊本や東北の震災に思いを致し、被災者に思いを馳せ、自分に何ができるのかを考え続けていきたいと思います。将来に関して不透明・不安定なことを見聞きすると暗い気持ちになることもあるかもしれません。しかし皆さんは、佛教大学の通信教育課程における学習を通して、さまざまな知見を獲得するとともに、専門に関わる技能や技術を身につけられ、あるいは免許や資格を取得されたことと思います。それぞれの学びの成果に自信を持ち、佛教大学を卒業・修了したことに誇りを持って、目の前の道を一歩一歩着実に歩んでください。そして、皆さんの着実な歩みが間違いなく社会に希望をもたらすはずです。一人ひとりが希望の灯となることを信じて、どうか歩みを続けてください。

本日で一旦、皆さんの学びは終了しますが、時代の変化はとても速く、私たちを取り巻く社会は、想像をはるかに超えた速さで変わっていきます。そういった予測不能の時代にあっては、社会の急激な変化に対応するためにも、更なる学びが必要とされる時が必ずやってきます。また、現在は生

涯にわたって学び続けることが求められる社会でもあります。そのような社会の中で力を発揮するためには、学び直すこと、学び続けること、そして考える力に、さらに磨きをかけることなどが必要となってくるでしょう。もしも新たな学びが必要な時には、再び佛教大学に帰ってきてください。本学には通信教育課程はもちろんのこと、大学院、オープンラーニングセンターなど、長い人生における多様なニーズに応えることのできる学びの場が用意されています。また、これからの皆さんの人生の中で、悩んだり迷ったりした時には、焦らずに立ち止まり、振り返って考えてみることも必要でしょう。そのような時にはぜひ佛教大学を思い返してください。皆さんの学びの原点である佛教大学で、私たちは、いつも皆さんを見守っています。そして、教職員一同、皆さんの再訪をいつでもお待ちしています。

卒業、修了される皆さん全員が、明るい未来に希望を託し、自信と誇りを持ってご活躍されることをお祈りし、告辞といたします。

令和7年3月25日

佛教大学長　　伊藤　真宏